

戦略的プロジェクト研究推進事業

「有害化学物質・微生物の動態解明によるリスク管理技術の開発」

研究概要図

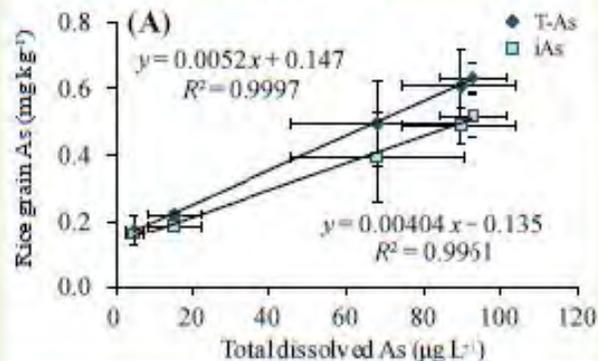
中課題番号	18065121
中課題名	省力的かつ現場で使い易いコメの無機ヒ素低減技術の開発
研究実施期間	平成30年度～平成34年度（5年間）
代表機関	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 （農業環境変動研究センター）
研究開発責任者	加藤 直人
研究開発責任者 連絡先	TEL：029-838-8311
共同研究機関	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 （東北農業研究センター、中央農業研究センター、西日本農業研究センター） 秋田県農業試験場 岩手県農業研究センター 千葉県農林総合研究センター 新潟県農業総合研究所 富山県農林水産総合技術センター 長野県農業試験場 愛知県農業総合試験場 三重県農業研究所 滋賀県農業技術振興センター 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 山口県農林総合技術センター 国立大学法人島根大学
農林水産省内 本事業担当	消費・安全局食品安全政策課食品安全技術室 代表：03-3502-8111（内線4451）

研究概要図

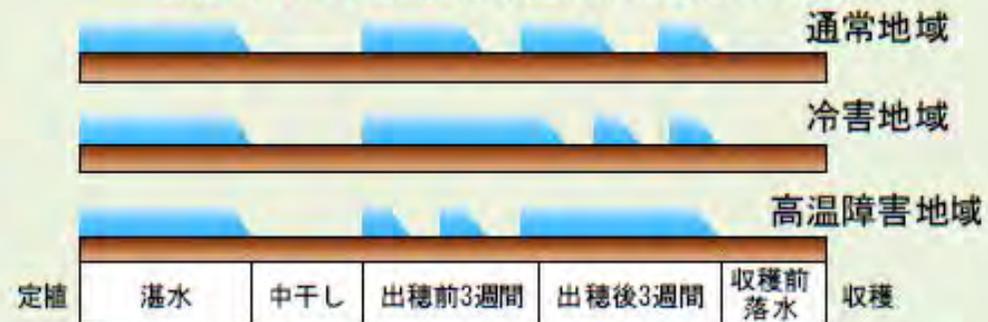
研究課題名: 省力的かつ現場で使い易いコメの無機ヒ素低減技術の開発

目的: 生産現場での実行性が高く、コメ中無機ヒ素濃度を湛水栽培と比べ半分程度に低減できる栽培管理技術を確立する。

コメ中無機ヒ素濃度の低下には**出穂後3週間の溶存ヒ素濃度低下が重要**



出穂後3週間の**溶存ヒ素濃度低下に有効で収量・品質を低下させない、地域に最適な水管理技術**



府県の11公設試験場を含め全国15か所で実証

方法: 出穂前後の2回、4日間落水状態に保つことによるコメ中無機ヒ素濃度低減効果を実証し、各地域における水管理の最適化を行う。鉄資材によるコメ中無機ヒ素・カドミウム濃度低減効果の持続性やケイ酸資材連年施用による低減効果を明らかにする。水管理のタイミングの参考になる使いやすい指標を開発する。ヒ素吸収の大きい生育期間の特定に必要なデータの取得を行う。出穂後の稲止め葉のヒ素濃度から玄米無機ヒ素濃度を推定する方法を開発する。

期待される成果: 生産現場での実行性が高く、収量・品質に影響することなく玄米中無機ヒ素濃度を低減するための対策技術が確立され、食品の安全性向上に寄与できる。